

令和6年度 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP) 共同 IR 報告書

テーマ：「公開講座」の実施状況
報告日：令和7(2025)年4月25日

標記の件について調査を行いましたので、下記の通りご報告いたします。

記

1. 調査の趣旨

第19回TJUP共同IR責任者会議及びその後のグループ内検討により、2024年度第2回共同IR調査のテーマが、『「公開講座」の実施状況』に決まりました。この調査は、令和6年度(2024)私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3(地域連携型)の「⑩公開講座の実施」に関連しており、各校で実施されている公開講座の具体的な実施状況を分析対象としています。

会員校の公開講座について、受講者や受講料設定、実施形態等の実施状況をまとめました。公開講座の実施計画等に際し、参考資料になるものと捉えております。

2. 調査対象

TJUP 会員校(私立大学 15、私立短期大学 4)

回答校 19 校(私立大学 15、私立短期大学 4)

3. 調査期間

令和7年1月31日(金)～2月21日(金)

4. 調査設問

◆事前設問

大学名

公開講座実施状況

2024年度実施した公開講座数

合計受講人数「延べ数」

◆調査項目

問1 講座カテゴリー※、講座名

問2 受講者数

問3 受講者数(年齢層別)

問 4 受講者居住地域

問 5 受講料設定※

問 6 実施形態※

問 7 講師設定※

※は選択形式

「公開講座」とは、改革総合支援事業タイプ3（地域連携型）⑩の要件のとおり（以下のとおり）となります。

- 「公開講座」とは、社会一般の教養の啓発を目的として正課の授業とは別に開講されているものとする。資格付与のための講座（当該講座を受講することで一定の資格が付与される講座）は該当しない（ただし、当該大学等が独自に創設した資格の場合は該当する）。
- 講座数は、開講した講座数を、受講者の募集をした講座ごとに1講座として計算すること（募集の結果、受講者が集まらず開講されなかったものは該当しない）。なお、募集の対象が当該大学等の学生のみ場合は、該当しない。
- 当該大学等が主催又は共催しているもの。単に講師派遣のみ場合は該当しない。

5. 調査項目

問 1 講座カテゴリー 及び 問 2 受講者数

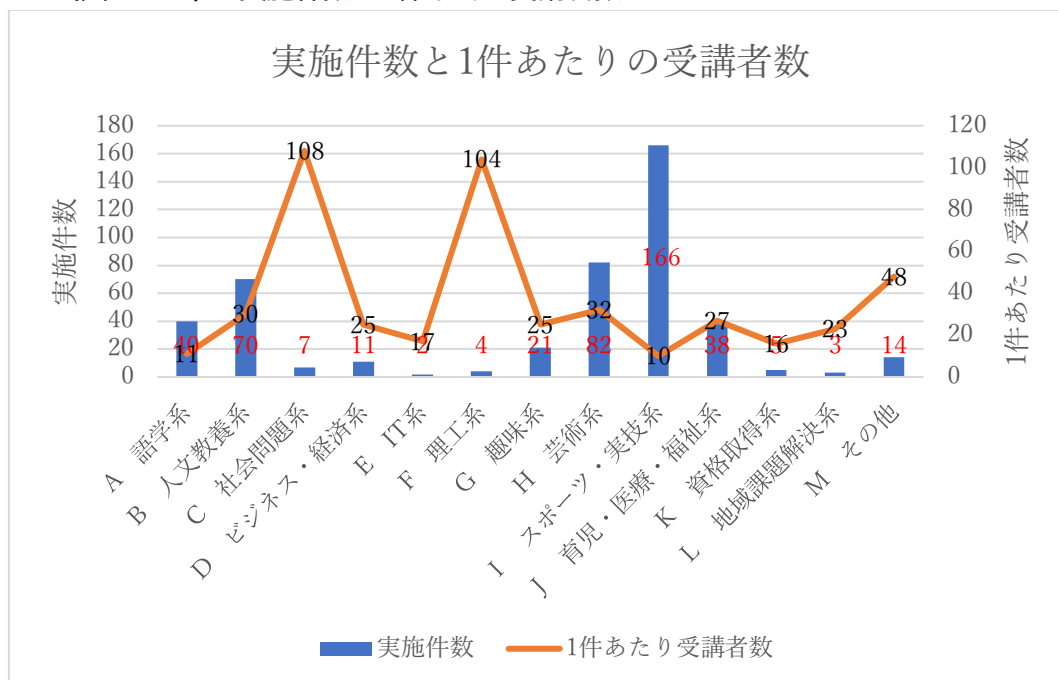
講座カテゴリーごとの実施件数・受講者数

(表 1 - 1) 講座カテゴリーごとの実施件数、受講者数及び 1 件あたりの受講者数

講座カテゴリー	実施件数 (件) (A)	受講者数 (人) (B)	1 件あたり受講 者数(人) (B÷A)
A 語学系 (英語、フランス語等)	40	455	11
B 人文教養系 (歴史・文学等)	70	2,077	30
C 社会問題系 (政治・時事問題等)	7	756	108
D ビジネス・経済系 (経営・財務等)	11	276	25
E IT 系 (パソコン・インターネット等)	2	34	17
F 理工系 (自然科学・工学等)	4	417	104
G 趣味系 (園芸・料理等)	21	534	25
H 芸術系 (音楽・絵画等)	82	2,611	32
I スポーツ・実技系 (フィットネス・ゴルフ等)	166	1,608	10
J 育児・医療・福祉系 (子育て、メンタルヘルス、 介護等)	38	1,044	27
K 資格取得系 (簿記、色彩検定等)	5	78	16
L 地域課題解決系 (地域リーダー育成、地域学等)	3	68	23
M その他 (上記以外)	14	673	48
計	463	10,631	23

※ 1 件あたり受講者数は、小数第 1 位を四捨五入。

(図 1 - 1) 実施件数と 1 件あたりの受講者数



コメント：

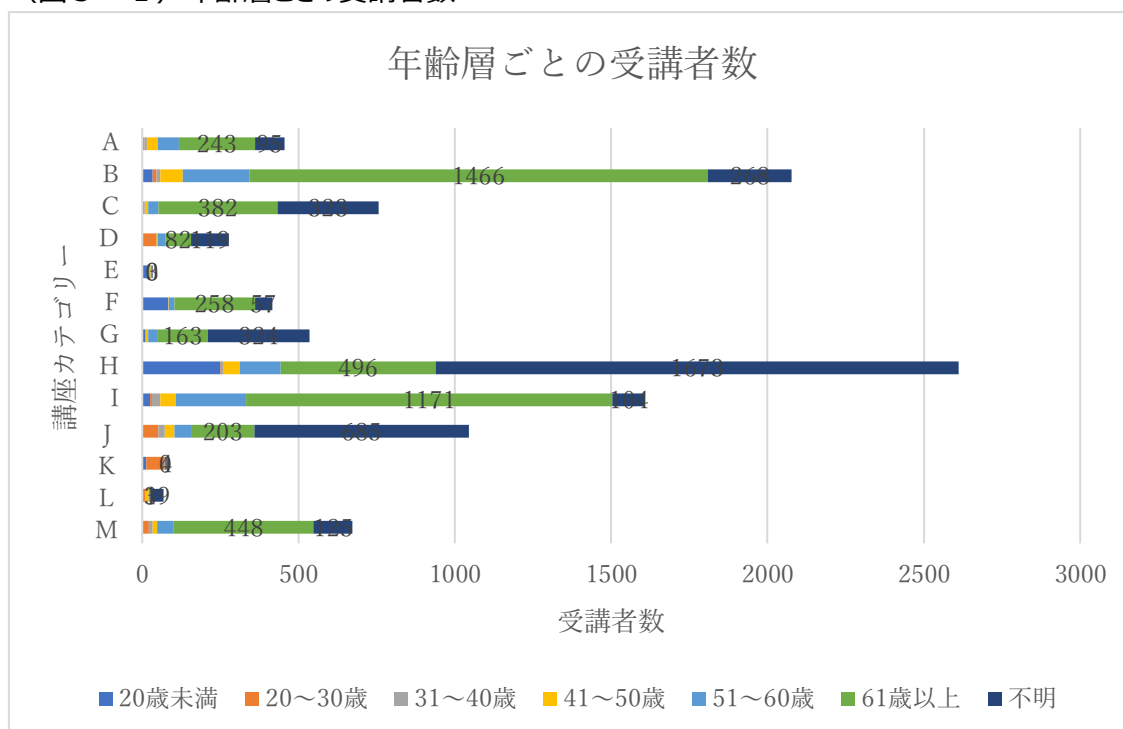
- 1 件当たりの受講者数で見ると、「C 社会問題系」「F 理工系」の受講者数が多い。
- 演習や実技を含む場合に募集人数を制限していることも考えられるが、今回の調査では判断できなかった。

問3 受講者数（年齢層別）

（表3－1）年齢層ごとの受講者数（人）

	20歳未満	20～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上	不明	合計
A 語学系	4	3	8	34	68	243	95	455
B 人文教養系	33	12	13	72	213	1,466	268	2,077
C 社会問題系	3	3	3	9	33	382	323	756
D ビジネス・経済系	4	41	1	3	26	82	119	276
E IT系	18	0	1	9	3	0	3	34
F 理工系	82	0	0	2	18	258	57	417
G 趣味系	10	0	0	9	28	163	324	534
H 芸術系	250	5	6	51	130	496	1,673	2,611
I スポーツ・実技系	26	5	27	49	226	1,171	104	1,608
J 育児・医療・福祉系	0	52	20	30	54	203	685	1,044
K 資格取得系	13	59	1	0	1	0	4	78
L 地域課題解決系	5	4	1	11	7	1	39	68
M その他	0	21	12	14	53	448	125	673
計	448	205	93	293	860	4,913	3,819	10,631

（図3－1）年齢層ごとの受講者数



コメント：

○年齢層不明の受講者は全体の35.9%。講座カテゴリー別では「G 趣味系」の60.7%、「H 芸術系」64.1%、「J 育児・医療・福祉系」65.6%、「L 地域課題解決系」57.4%を占める。

○年齢層不明の受講者を除き、各講座カテゴリーに占める年齢層の割合を算出した。（上記の通り、年齢層不明が半数を超える講座カテゴリーもあるので、おおよその傾向になる。）

（表３－２）年齢層ごとの受講者の割合（年齢層不明を除く）（％）

	20歳未満	20～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
A 語学系	1.1	0.8	2.2	9.4	18.9	67.5
B 人文教養系	1.8	0.7	0.7	4.0	11.8	81.0
C 社会問題系	0.7	0.7	0.7	2.1	7.6	88.2
D ビジネス・経済系	2.5	26.1	0.6	1.9	16.6	52.2
E IT系	58.1	0.0	3.2	29.0	9.7	0.0
F 理工系	22.8	0.0	0.0	0.6	5.0	71.7
G 趣味系	4.8	0.0	0.0	4.3	13.3	77.6
H 芸術系	26.7	0.5	0.6	5.4	13.9	52.9
I スポーツ・実技系	1.7	0.3	1.8	3.3	15.0	77.9
J 育児・医療・福祉系	0.0	14.5	5.6	8.4	15.0	56.5
K 資格取得系	17.6	79.7	1.4	0.0	1.4	0.0
L 地域課題解決系	17.2	13.8	3.4	37.9	24.1	3.4
M その他	0.0	3.8	2.2	2.6	9.7	81.8
計	6.6	3.0	1.4	4.3	12.6	72.1

コメント：

- 61歳以上の受講者が全体の72.1%を占める。（51歳～60歳を合わせると84.7%。）
- 「E IT系」「K 資格取得系」「L 地域課題解決系」以外の講座カテゴリーでは、61歳以上の受講者が半数以上を占める。
- 20歳未満が受講したのは22講座448人（表３－１、表３－３参照）。そのうち、講座名に「親子」「高校生」「～で遊ぼう」が付く等、対象年齢層を推測できる8講座で397人と、年齢層の88.6%を集めている。
- 「E IT系」の実施件数は2件（テーマはいずれもプログラミング）。受講者の年齢層は次の通りで、これも親子での参加と推測される。（単位：人）

	20歳未満	20～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上	不明
E IT系①	3	0	0	0	0	0	3
E IT系②	15	0	1	9	3	0	0

○その他の講座カテゴリーでは、次の傾向が見られた。

- ・「D ビジネス・経済系」では、20～30歳の受講者が26.1%（41人）と、61歳以上に次いで多い。
- ・「K 資格取得系」では、20～30歳の受講者が79.7%（59人）を占める。一方、61歳以上の受講者はいなかった。

- ・「L 地域課題解決系」では、すべての年齢層から受講者がおり、かつ 31～40 歳及び 61 歳以上を除く年齢層の受講者が 13.8%～37.9%と、もっとも年齢層の偏りが少なかった。

(表 3－3) 年齢層ごとの受講講座数 (件)

	20 歳未満	20～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61 歳以上	不明
A 語学系	3	2	7	20	32	37	16
B 人文教養系	2	10	9	19	47	62	17
C 社会問題系	1	2	2	3	4	5	5
D ビジネス・経済系	1	2	1	3	5	5	8
E IT 系	2	0	1	1	1	0	1
F 理工系	2	0	0	2	2	2	3
G 趣味系	1	0	0	6	12	17	6
H 芸術系	3	2	5	22	34	44	41
I スポーツ・実技系	2	4	20	42	108	156	51
J 育児・医療・福祉系	0	12	7	10	13	11	30
K 資格取得系	4	5	1	0	1	0	3
L 地域課題解決系	1	1	1	1	1	1	3
M その他	0	2	4	4	9	11	6
計	22	42	58	133	269	351	190

※件数は、各年齢層で 1 名以上の受講者がいた場合にカウントしたもの。

コメント：

- 全体として、年齢層の上昇につれて、受講する講座数も増えている。

問 4 受講者居住地域及び問 6 実施形態

(表 4 - 1) 講座カテゴリーごとの受講者居住地域

	受講者居住地域		
	開催キャンパス所在地 市町村 (人・%)	左記以外 (人・%)	居住地域不明 (人・%)
A 語学系 計 455 人中の割合	214 47.0%	241 53.0%	0 0.0%
B 人文教養系 計 2,077 人中の割合	517 24.9%	1,493 71.9%	67 3.2%
C 社会問題系 計 756 人中の割合	125 16.5%	336 44.4%	295 39.0%
D ビジネス・経済系 計 276 人中の割合	39 14.1%	131 47.5%	106 38.4%
E IT 系 計 34 人中の割合	16 47.1%	18 52.9%	0 0.0%
F 理工系 計 417 人中の割合	121 29.0%	296 71.0%	0 0.0%
G 趣味系 計 534 人中の割合	153 28.7%	359 67.2%	22 4.1%
H 芸術系 計 2,611 人中の割合	148 5.7%	1,179 45.2%	1,284 49.2%
I スポーツ・実技系 計 1,608 人中の割合	1,197 74.4%	411 25.6%	0 0.0%
J 育児・医療・福祉系 計 1,044 人中の割合	112 10.7%	371 35.5%	561 53.7%
K 資格取得系 計 78 人中の割合	3 3.8%	75 96.2%	0 0.0%
L 地域課題解決系 計 68 人中の割合	0 0.0%	0 0.0%	68 100%
M その他 計 673 人中の割合	333 49.5%	329 48.9%	11 1.6%
計	2,978	5,239	2,414

※割合の算出では小数第 2 位を四捨五入したため、100%にならないことがある。

コメント：

○居住地域の分かる受講者 8,217 人 (= 2,978 人 + 5,239 人) の内訳は、開催キャンパス所在地から 36.2%、それ以外 (左記以外) から 63.8%であった。

○「I スポーツ・実技系」と「M その他」を除き、「左記以外」からの受講者が多い。公開講座の広報の方法によるものと思われる。

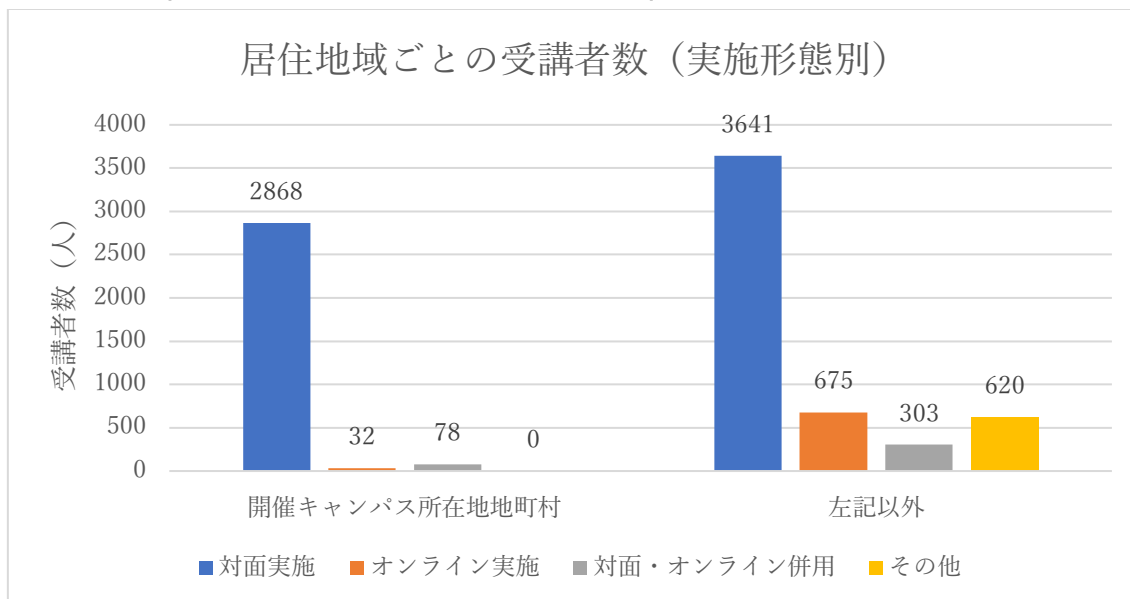
(表４－２) 講座カテゴリー別の実施形態（受講者の居住地域：開催キャンパス所在地市町村）
(人)

	対面実施	オンライン実施	対面・オンライン併用	その他
A 語学系	214	0	0	0
B 人文教養系	517	0	0	0
C 社会問題系	125	0	0	0
D ビジネス・経済系	31	8	0	0
E IT系	16	0	0	0
F 理工系	121	0	0	0
G 趣味系	84	0	69	0
H 芸術系	145	3	0	0
I スポーツ・実技系	1,197	0	0	0
J 育児・医療・福祉系	91	12	9	0
K 資格取得系	3	0	0	0
L 地域課題解決系	0	0	0	0
M その他	324	9	0	0
計 (2,978 人)	2,868	32	78	0

(表４－３) 講座カテゴリー別の実施形態（受講者の居住地域：開催キャンパス所在地市町村以外）(人)

	対面実施	オンライン実施	対面・オンライン併用	その他
A 語学系	241	0	0	0
B 人文教養系	1,065	428	0	0
C 社会問題系	290	46	0	0
D ビジネス・経済系	115	16	0	0
E IT系	18	0	0	0
F 理工系	296	0	0	0
G 趣味系	140	0	219	0
H 芸術系	547	12	0	620
I スポーツ・実技系	411	0	0	0
J 育児・医療・福祉系	257	30	84	0
K 資格取得系	75	0	0	0
L 地域課題解決系	0	0	0	0
M その他	186	143	0	0
計 (5,239 人)	3,641	675	303	620

(図 4 - 1) 居住地域ごとの受講者数 (実施形態別)



コメント：

- 開催キャンパス所在地市町村の受講者 2978 人では、対面実施による受講が 96.3%、それ以外の実施形態による受講が 3.7% (110 人) であった。
- 左記以外の受講者 5,239 人では、対面実施による受講が 69.5% (3,641 人)、それ以外の実施形態による受講が 30.5% (1,598 人) であった。また、「実施形態：その他」には 4 講座を含み、講座名称からオンデマンド 2 件、通信講座 2 件であることが判別できた。

問5 受講料設定

(表5-1) 講座カテゴリーごとの受講料の設定 (件)

	1,000～2,000 円	2,000 円以上	無料
A 語学系	1	37	2
B 人文教養系	5	43	22
C 社会問題系	3	0	4
D ビジネス・経済系	0	1	10
E IT 系	1	1	0
F 理工系	1	0	3
G 趣味系	6	12	3
H 芸術系	1	76	5
I スポーツ・実技系	2	160	4
J 育児・医療・福祉系	0	19	19
K 資格取得系	0	5	0
L 地域課題解決系	0	0	3
M その他	2	7	5
計	22	361	80

コメント：

○計 463 講座のうち、383 講座（22+361 講座）（82.7%）で受講料を徴収している。

(表5-2) 講師設定ごとの受講料の設定 (件)

	1,000～2,000 円	2,000 円以上	無料
学内教員 (178 件)	16	92	70
学外委託 (148 件)	6	132	10
その他 (137 件)	0	137	0
計	22	361	80

コメント：

○受講料を徴収する講座は、講師設定が学内教員の場合は 60.6%、学外委託では 93.2%。備品等の費用等のほか、委託料等が計上されていると推測される。

(表5-3) 実施形態ごとの受講料の設定 (件)

	1,000～2,000 円	2,000 円以上	無料
対面実施 (431 件)	22	351	58
オンライン実施 (25 件)	0	8	17
対面・オンライン併用 (3 件)	0	0	3
その他 (4 件)	0	2	2
計	22	361	80

コメント：

- 対面実施のうち 373 講座（22+351 講座）（86.5%）で受講料を徴収している。それ以外の形態（32 講座＝25+3+4 講座）では、10 講座（31.3%）で徴収している。

問 6 実施形態及び問 7 講師設定

(表 6 - 1) 講座カテゴリーごとの講師の設定 (件)

	学内教員	学外委託	その他
A 語学系	6	34	0
B 人文教養系	40	30	0
C 社会問題系	6	1	0
D ビジネス・経済系	9	2	0
E IT 系	2	0	0
F 理工系	4	0	0
G 趣味系	9	12	0
H 芸術系	41	41	0
I スポーツ・実技系	7	22	137
J 育児・医療・福祉系	36	2	0
K 資格取得系	3	2	0
L 地域課題解決系	3	0	0
M その他	12	2	0
計	178	148	137

コメント：

○全体の設定状況は、学内教員 38.4%、学外委託 32.0%、その他 29.6%であった。

○「講師設定：その他」は「I スポーツ・実技系」のみ（すべて 1 校による選択）。

(表 6 - 2) 講師の設定ごとの実施形態

(件)

	対面実施	オンライン実施	対面・オンライン併用	その他
学内教員	154	19	3	2
計 178 件中の割合	86.5%	10.7%	1.7%	1.1%
学外委託	140	6	0	2
計 148 件中の割合	94.6%	4.1%	0%	1.4%
その他 (137 件)	137	0	0	0
計 137 件中の割合	100%	0%	0%	0%
計	431	25	3	4

※割合の算出では小数第 2 位を四捨五入したため、100%にならないことがある。

コメント：

○学内教員が担当した場合、学外委託の場合と比較して、対面以外の形態による実施率が若干高かった。

6. まとめ

今回の調査で分かるように、公開講座を実施した 16 校だけでも 61 歳以上の受講者が全体の 72.1%、そこに 51 歳～60 歳を合わせると 84.7%が受講者を占めている。全体からみると少ない数字になるが、講座名に「親子」「高校生」「～で遊ぼう」が付く等の対象年齢層を推測できる 8 講座で絞ると年齢層の 88.6%が 20 歳未満であった。大学は公開講座を実施する場合、幅広い年齢層の方に対応した「学びたい」という意欲に応えていく必要がある。

また、大学で公開講座を実施することによって、受講者から大学の「認知度向上」や「親しみを持ってもらえる」という効果が得られるのではないか。大学の存在を知ってもらい、実際にキャンパスに足を運んでもらうことで、大学の教育活動を正しく理解してもらうことができ、大学のイメージアップにも繋がっていくのではないかと考える。

以上